

此 詳

之 卷

序 註

物 見 車

027
52
1





| |
|-----|
| 029 |
| 52 |
| 1 |

尊女知愛
第 1165 / 號
書 圖

序

紫子代も松風始と云うをさるるを云は
しむるあり十二律と云う物もつこ目出度大
け方の人の身は是物もつこ目出度大
也多うくんと云うや甲は統い音よい六
義十律と云ふは竊まは詠諧も其
校本のこもつとつと云うも其のたう
いふは借くんと云ふ一故人の書も其
しと云統い連歌をむくは名師分所新
しむる一毎定めむくしと也詠諧則と

中よりと云風信と物家と只と云大いひの
つらふと云わしと統い今時部部一詠諧
を再事已入西と盛く又其の中句も
善悪と云と人多うしといふもいふも
しと云と云して見各別あつと云と
を天皇鬼衣水と云りしと云り故り初
学い其田と云と云うと云一途と云の
りたりと云乃條をあふと云ふ詠諧しあ
互は口傳はのりとも持を解はうまあとう

瓶と折あひせたりとてあはれしとてわさ
 いらしとて此明暗をそととてふとのあしん
 わさしとて此とてとてとてとてとてとて
 一能信の森白とておほく物一の鬼知と
 権よ若さ白れあつとてつ七五の白とと
 又文字の月ととととととわとととととと
 とととととととととととととととととと
 の中りしとととととととととととととと
 雨膳脂濕とととととととととととととと

り東坡山谷女遊俳印等潤老嫩落し補
 いし事ばどりのいし事今は却し能彼と
 又とととととととととととととととととと

未世世や権り美しと白れと
 借いりあさねよ美有白さ
 町をくれらゆふくし黄と白と有
 蝕の舌の権り黄と白と白れと
 藪分を五とととととととととと
 権し美し心は稀しなり

似松
 常枝
 秋薫
 曉山
 藪
 哀

詩
 三

方寸のついでにしつじやいふなり
なみやまじりてんみりしつじ

方山

川のくくちを言葉大なるいづのいけをいふ
いつれと非とせんや乞杜詩の句の温字
は各あそびつらうくくくくくくくくくくく
一のいふれりかくてくくくくくくくくく
ありあわらんくくくくくくくくくくく
法全よ我くくくくくくくくくくく
且とのれくくくくくくくくくくく
と奥を家近け句と始はくくくくくく

名ひくくくくくく道よとくくくくくく
河つれくくくくくく樂くして居らん
多日京田谷くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
所乃長若い式を圓をくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
き此くくくくくくの方向くくくく
何のいきのくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくく

毛吹とやうらうらとくはなむやうく世とくうら
ゆしやまとのまな名とゆとよとくしす
とくふふとくまふとく一々秋とく一巻二
やとくゆり宗匠のそりあひ見惚つる推
敲とくつとくめうしとくあへともれを
批園とく雲泥のお遠まはつとくく再吟
しとくまをさゆりうらう海士とく本推
世松とくあひくあひとくく一是岳者か
えとくあえの所わらぬ初名の田ういとか

とくせうとく今うらぬじうく人名源とく
ゆまうとくわとくすてあてとくの道す
とくあひすとうとく林花はるを守りゆ
や作は一卷はうはく有く無字は道と頭
すく如く物見車や影すして我かよ
あまうやゆま持よらうとくあゆりま
乾根籍人つとくあしとくわく人あま
見かまゆ程行のあまわく一筆は命毛
く書はとくあまうとくあしとく明老の葉

下ノ投ト維時元禄三庚午八月ノ中秋盡
 雅澁橋頭隱士步雲子叙



秋仙之俳諧

自註

三月月乃わりのとを科を紙巻

夕陽よひうら三日の月然きわくは
 あらわしとちわあふの季之月のどろ
 次身に濃らるして真をくはくは
 反は月の科とも作らる

花乃辰のりかむらじ葉は花

花のりは長が都の季之とに
 ちも銀葉の花は、
 ぬきと柳の柳は、
 五葉の柳は、

杖より竹の根をきりて

杖より切らざるに竹の根は小くわづ
稀く赤白の皮はたれなきはあり

句意

葉は入花のつらりと花は時を知らず
竹はそのまゝに花のつらりと別

葉も竹の根も

怪和と麿は人のととあり

影入ひく竹杖ありひ

雨やよりなやむるまはあつらふ

わづ小向てはたひのむらり

かりし月とくらきまゝのまゝ

らとまづあつらふ句は作るなり

山むらりえ杯を酒屋に取

山むらりあひひし作し出は城北

外は竹の葉は出入するくゆく

竹の葉は竹の葉は竹の葉は竹の葉は

ととれひひひひひひひひひひ

付煩むしんひひひひひひひひ

草の舞臺の衣装備はれ

一ひひひひひひひひひひひひひひ

葉は竹の葉は竹の葉は竹の葉は

ととれひひひひひひひひひひ

五音の舞臺の舞臺

服の舞臺の舞臺

待渡一糸のしこ目と打らぐ航

在来ヨリかく付合スヤ 御座まれとも
打らぐらぐのしこ目と打らぐ航
ちく付燭ひして如也

賀汝巨腹は枕まろく場

祥子月のおろしやなり
まろくおろくと陸の目を御座
もあまひーかろくをたりにて
あまの舞に抱まろくせな
付し付まてなり

姉のん侍鏡をかりのまゝ立の近

常の附と珍なりそ不及註

踊くは秋てまろくじとふらよ

在来ヨリとのと繁めてはまろく
幻少旅と思うくと女をまろく
踊を常の附物なりまろくのま
假をまてはまろく、のう侍りま
とまま侍りなり打あり一南六
舞のまろくとまろくの侍りま
むこのまてまろくまろく侍り

標本ても西浮りのま町送

西陣はあろくと踊物とくまろ
あろくとまろくのまろくと
あろくとまろくとまろくと

妙賢出ると月のよや重なり

あふ註成りて附合と

時言かむのちこつて

親の目よ何れを知られ七九

至夜のワラリもわくくまて

家は家業よんかけしが親の目

わはわくれやまのたひひと

附れきては年と云らん

とくふとしてそつて廻り

武ままにのいふとかりひら

そ梨一ひを唯我物のちくわ

春をまきりのはまのるわら

わを後いふちしよわとゆう

その海うく水庭をくまみ

付ナ信

北智乃猿籠の味ははる

その海うくしつふあをち

と月ひ一向は俺と下ん

付くると猿籠は上り

は眠つてつとれじ家

春のよらうとして家あつ

子からひととねんを

南の春目かの極し

孫行の雅楽のつらとて
我家とつらのつらとて
とつらとて附り

新依くして為子孫場

自由考註下とて
むらゝの氣味は解

去白の思も浦を廻りて

浪高くとて様本とてその
浦くるとて出れ廻りし願也と
就て透網張り去白は
廻り新依くの根とて
とて

私儲と者も足勢也厚外

弄内乃れわりの行を去白望固
夫橋乃れ乃の海ももとくあく
常とはりて海邊抄のる下
孫人の故い海とるなり南内
下を海邊抄とては無神
は立し梨

一可宛初の橋と吞付ら

社よ又法法禁の歌

初といふ法法所弄内の客服とて梨
お歌の厚外も初の橋も吞付ら
てと付りまゝ南内とて初と

い(は)り(入)は(く)る(ま)り(は)り(し)
む(れ)く(ま)り(し)り(し)り(し)
附(注)して(唯)句(と)あ(り)り(し)
ま(は)り(し)り(し)り(し)

本(注)氣(を)女(を)怪(し)一(線)の(内)

向(き)を(唯)律(が)よ(夜)又(て)
信(す)女(を)怪(し)り(し)り(し)り(し)り(し)
と(不)及(び)註(句)の(面)に(あ)り(し)り(し)

意(程)を(了)して(藥) 傳(定)

原(氏)む(後)の(心)と(別)ひ(て)あ(り)
の(女)と(妻)あ(り)て(付)き(衆)下(の)
七(り)り(し)り(し)り(し)り(し)り(し)

け(は)り(し)り(し)り(し)り(し)り(し)

心(中)も(せ)き(を)心(心)の(は)ま(り)

幅(じ)り(し)り(し)り(し)り(し)り(し)

右(三)句(自)註(一)と(二)と(三)と(四)と(五)と
わ(三)具(其)ち(城)と(妻)出(り)り(し)り(し)
母(坊)の(所)に(あ)り(し)り(し)り(し)り(し)

茶(と)煮(て)賣(ら)れ(松)乃(下)菴

人(押)け(守)り(し)り(し)り(し)り(し)り(し)
と(ろ)の(ひ)ま(の)下(菴)よ(か)り(し)り(し)

山伏乃老刀いさくわさる月

南の海及よはゆり公野の衆
人家よへて是まほくのいはと
わらひて節よりしを刀を出
是らて後行者の市より
いなるはとものかい衆をら
かろを物勝と云ふ下着の外
あめそいはいまうく包髪の髪は
とくな海原とわらひいさく
なり久に下の麻いふりさり

道向の註成カタニ附合時
舟向の舟わらひいさく
舟其なる

飛騨をねむむかこくし御殿ゆえん

わさるてまふ山御殿今任命と
かくちて統成お取不控よま
まを参るねよいまうく及ふ
孫神の遊びを熱の山原ら
あはそらえと倍しをこま
とむつと付券

着てふ家衣よ澄わしる秋

ねんやまの比空あけし
ねんわんのかい
衣あしわらうれま
まはあらし今もせよ
あはらわらしよせま

死のあはれ念仏長よむらさき

常途さう海舟の一生の別紙
今この時におらそ海舟の中へ
と海へのまわくをうかひをさう
まふまふとまひうらなはれ
まふまふもいふくわらんれ
まふまふてふあうらひ
あひ
長所と離れかまみどつれまふ
まふまふとまふまふの附けまふ
まふまふ

舟のあはれ念仏長よむらさき

舟との川波をうらうらあう
あふまふの海舟とまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ
あふまふのあうらとまふまふ

花はあはれ念仏長よむらさき

船中まふとまふまふの花と海舟
とまふまふとまふまふの花と海舟
とまふまふとまふまふの花と海舟

くまど行む襟の翻

元平
古よりなつらん花の襟に附き
美の芳切に襟にユモトリ

武江の桃青今ハ雲浮の色よ信くせそ
衾箔を批判せと申あん浪花の轍士
壬生れ和及い平う知故かれいけ
信くすし好ゆしと何んはさうあり
あふ多なきうあひかすしし信き後
今とそこのれくそよいあし縁と板の
すを信くことりやとまあり



